

全国調査の結果から、学力の向上が進まない状況や学習意欲、規範意識が低位である傾向が続いている。児童生徒の学力、学習意欲、規範意識を向上させるためには、教員の資質向上が重要。

教員が自校の課題を把握し、自らの授業改善に生かす

- ・熱心な教員ほど、子どもの日々の姿にのみ気を取られてしまい、全国的な状況の中で、自校の子どもの課題を把握できていない傾向が見られる。
- ・自校の子どもの課題を把握し、自校の取組の強みと弱みを認識することで、自らの授業改善へのモチベーションにつなげる。

全国調査における各学校のKPIをレーダーチャートにして配布し、各学校で研修を実施するように指導

興味を喚起する授業、子どもが質問できる授業の実施

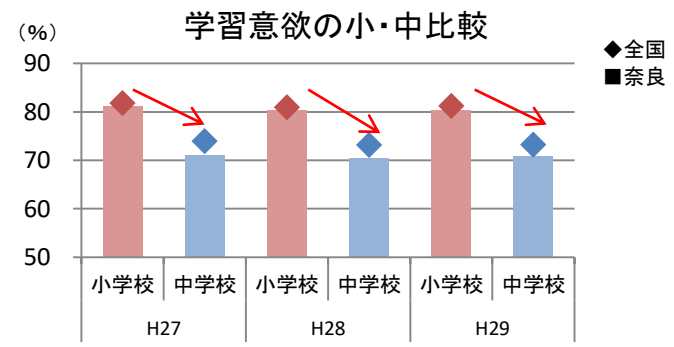
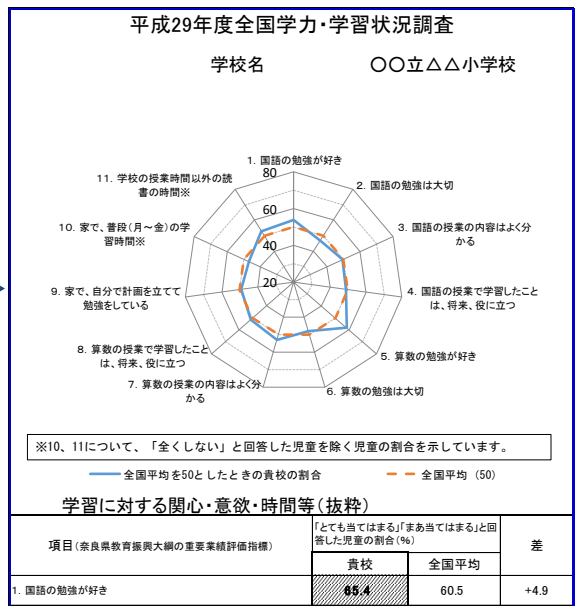
- ・学習意欲は、小から中へと学校段階が上がるにつれ低下。
- ・子どもの学習意欲を高める興味を喚起する授業、子どもが質問できる授業が、小学校に比べ、中学校ではあまり行われていない。

小・中合同の授業研究に優先的に指導主事を派遣。教員が学び合う機会とし、特に中学校教員が、小学校の授業づくりを自らの授業に生かす。

学力向上の効果的な方策を研究し、教員に指導（予定）

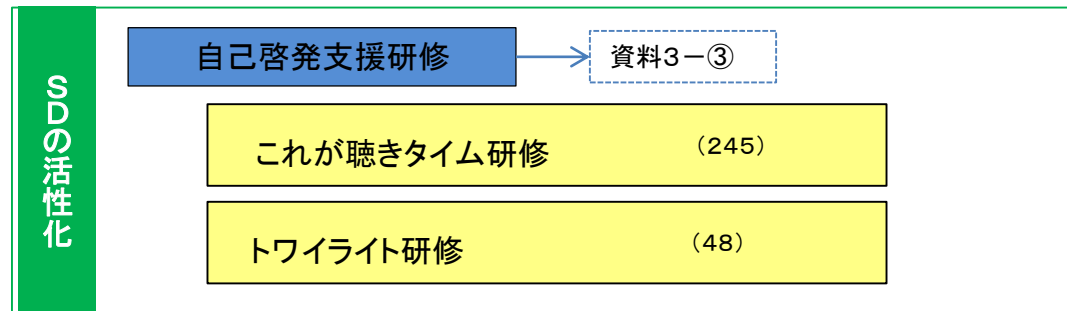
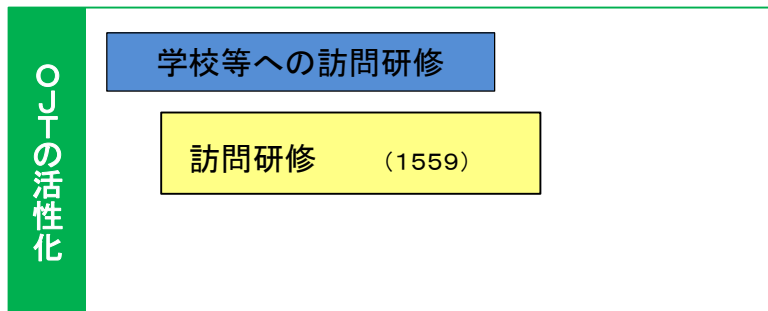
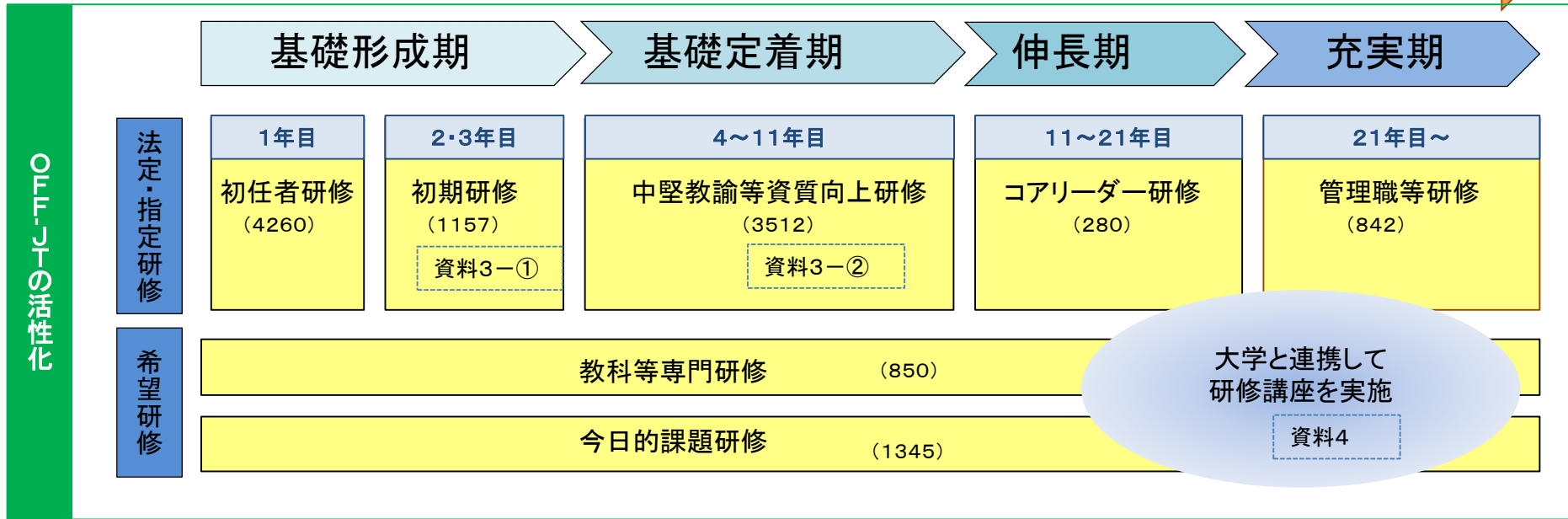
- ・2年前に県独自の学力調査を行った小4と中1が、今年度に全国調査を実施しており、調査結果の比較による同一集団の経年変化を現在分析中。
- ・同一集団で学力向上が顕著な学校への聞き取り調査を今後実施予定。

調査報告を本年度中にまとめるとともに、報告の中で、教員に求められる授業力の具体を明らかにし、市町村教育委員会をはじめ各学校教員への周知・普及を図る予定。



県立教育研究所では、学び続ける教職員を育成するため、キャリアステージに応じたOFF-JTや訪問研修等のOJTの活性化に取り組んでいる。

学び続ける教職員の育成



若手教員の主体的・協働的な学び合いや中堅教員の自律的・継続的な学び、教育課題に対応した学びのために研修システムを構築し、奈良県の教職員全体の資質・能力の向上を目指す。



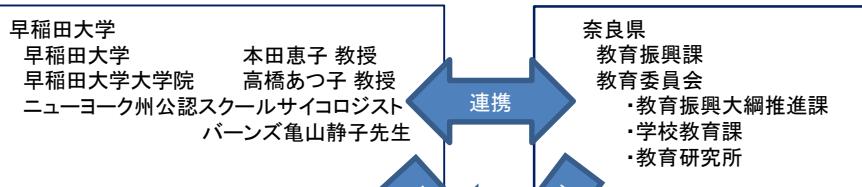
インクルーシブ教育モデルを構築するため、早稲田大学との連携による研修プログラムを実施。

インクルーシブ教育モデルの構築～学びのユニバーサルデザイン(UDL)で進める授業づくり～

目的: 学びのユニバーサルデザイン(UDL)におけるアセスメントの方法や多様性に応じた支援の在り方について学び、特別支援教育コーディネーターリーダーの指導力向上を目指す。

UDL(Universal Design for Learning) 米国のCASTが提唱した、学習者が主体的に学ぶことができるようにするための理論的な枠組み。

研修プログラムの概要



特別支援教育コーディネーターリーダー (幼・小・中・高・特) 35名

期日: 5/31・6/12・7/7・10/20・2/23 計5日間

内容: ◇子どもの背景を探る実態把握
◇年間ゴールと短期目標を明確にした「個別の指導計画」の作成
◇通常の学級の授業が進化する学習指導案作成と授業実践



インクルーシブ教育における学習の在り方

教授者中心の学習から **“学習者中心の学習”**へ

主体的な学びの実現

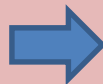
- ◆自らの学び方の特徴を知る。
- ◆自らの学びに合った学習方法を選択できる。

多様性への対応
「複数のアプローチ」の選択肢を用意
学びのスタイルに合わせた例
(複数のプリント・活動パターン・
タブレット使用等)

個に応じた指導
「個別の指導計画」に基づいた適切な指導

多方面からのアセスメント (個々の学びの特性・学級全体の学びの特性)

通常の学級における特別支援教育の推進



インクルーシブ教育モデルの構築